

5 研修概要 (別紙)

2018年4月1日から2018年6月30日に中央大学でおこなった「古典教育におけるアクティブラーニング型授業の研究」については、中央大学の吉野朋美教授のもとで大学院の授業に参加しながら、アクティブラーニング型授業を構想し、その可能性を検討した。その成果は、マナビフェス(2018年8月10日(金)、武蔵野大学 有明キャンパス)において、「新たな高大連携への模索～古典文学のワークショップを通して～」として発表した。さらに、吉野教授を研究代表者とする科学研究費(C)「高大連携による古典文学の探究型授業の教材作成と教育モデル構築の実践的研究」(研究課題番号19K00530)の構想を練り、2019年度に新規採択された。

2018年7月1日～2018年3月28日にかけてコロンビア大学でおこなった「東アジアを視野に入れた日本古典文学の国際的研究」については、2018年の秋学期にコロンビア大学東アジア言語文化学部のデイビット・ルーリー准教授の「日本の神話と説話」をテーマとする大学院のセミナーを聴講し、大学院生と交流しながら、東アジアはもちろん欧米の文学理論などに基づく日本の古典文学の研究法を学んだ。

同大学における「日本文学・日本文化研究に関するグローバルな学術交流の活性化をめぐる研究」については、2019年の春学期にコロンビア大学東アジア言語文化学部のハルオ・シラネ教授の「異界」をテーマとする大学院のセミナーを聴講した。このセミナーにおいて、大学院生と交流しながら、時代の枠にとらわれることなく、より広範な視野で日本の古典文学を研究する手法を学んだ。さらには、シラネ教授および大学院生たちの協力を得て、かねてから取り組んでいる江戸時代の和歌占い「清明歌占」の英訳に関する研究を進めた。

「東アジアを視野に入れた日本古典文学の国際的研究」「日本文学・日本文化研究に関するグローバルな学術交流の活性化をめぐる研究」の双方に関わる研究成果として、コロンビア大学と名古屋大学の共催による国際シンポジウム“Borders, Performance, and Deities”「一境界、芸能、神仏一」(2019年3月15日、16日開催、於コロンビア大学)のセッション2“Poetry, Deities, and Pacification of Spirits”「歌、神仏、鎮魂」において、“Kami Poems and Buddhist Poems in Imperial Waka Anthologies”「勅撰和歌集における神祇歌・釈教歌」としてパネル発表をおこなった。